# 教員養成大学における音楽オンライン授業の実際

Music online classes at teacher training colleges

小林 田鶴子 (神戸女子大学)
Tazuko KOBAYASHI (Kobe-women's university)
(要旨)

筆者の勤務校では、教員養成大学として、小学校・幼稚園教員、保育士を養成していて、音楽に関しては実技教科が多くなっている。これまでは、対面授業が当たり前だったが、2020年度は新型コロナウィルス感染拡大の為、オンライン授業を余儀なく実施することとなった。本稿では、これらの授業の実際について授業ごとに具体的に報告すると共に、オンラインの可能性や、課題についても触れる。

(キーワード)

ICT 機器、映像、表現

#### 1. 勤務校における音楽授業の現状

#### (1) 2020 年度の音楽授業概要

筆者の勤務する大学は、教育学科として、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士を養成しているが、小学校の英語教育導入に対応する為、2020年度入学生より、中学校の英語教諭免許も取得できるようにカリキュラム変更された。その関係で、音楽の授業は声楽1が年間120コマ分(通年30コマ×4クラス)削除された。その結果、音楽関係の授業は次のような科目となる。

- ・器楽  $I \sim IV \cdots ピアノと弾き歌いのレッスンで$  $選択科目。 <math>I \cdot II$  は 1 年次、 $III \cdot IV$  は 2 年次で 各半期ずつクラス別に開講。今年度から、 $III \cdot IV$  は幼児保育コースしか選択できなくなった。
- ・音楽科教育法…小学校免許必修科目の教育法。 今年度は2クラスずつ合同で2年生前期に開講。
- ・音楽科概説…小学校、幼稚園免許必修科目。 2 クラスずつ合同で1年生後期に開講。授業内 容は音楽理論を中心に音楽の基礎的なことを 学ぶ。
- ・保育内容演習表現 I …今年度から初めて開講された保育資格必修科目。2 年生の後期開講で、乳幼児の音楽表現について理解し、保育現場で必要

な適応力に富む音楽表現力を身に付けることを目的 とする内容になっている。

- ・保育内容(表現I)…幼稚園免許必修科目。 今年度は、短大からの編入生のために後期臨時 開講となった。
- ・教育学講読、教育学演習、卒業論文…ゼミで、 音楽をテーマにした研究を行う。前者2科目は 3年次の半期ずつの開講。卒業論文は通年開講。 器楽は、13人の非常勤と筆者がレッスンを行っているが、専任が筆者しかいない為、あとの 全教科は筆者が一人で担当している。

#### (2)前期オンライン授業の概観

2020年度の前期は、新型コロナウィスル感染拡大の為、全ての授業が原則オンライン実施となった。但し、実技授業でどうしても対面が必要な場合は、感染対策を徹底して実施することが認められたが、可能な限りオンラインを実施したので、表1に示すように前期の科目では音楽科教育法以外は全てオンラインで実施した。表中の①、⑤の双方向の授業は zoom を使用し、②~④は本学が導入している LMS (Learning Management System)の manaba (マナバ) 2によって実施した。

<sup>1</sup>歌を中心として、手遊びやグループでの模擬保育や模擬 授業、アンサンブルの発表などを行う。

<sup>2</sup> 朝日ネットの LMS で多くの大学で採用されている。動画作成は 2020 年度行吉学園教育・研究助成[研究部門]を受けて実施。

なお、後期は原則として対面授業となったが、manaba の活用は続けたので、後期授業でも②~ ④の内容は取り入れられた。特に音楽科概説では前期に作成した、器楽での楽典説明画像に追加して、補助的にオンデマンド配信を行った。また、器楽に使ったドリル・小テストの内容を詳細にしたものを使用した。

器楽では家庭の事情等で、来学できない学生 には引き続き zoom による授業も行われた。

表 1 音楽授業とオンラインの利用状況 (◎は中心として使用、○は補助的に使用)

教科	器楽	音楽科	教育学	音楽科
実施方法		教育法	購読等	概説
① 双方向	0	0	0	
② オンデマンド	$\circ$	0	$\circ$	$\bigcirc$
コンテンツ配信				
③ 小テスト	$\circ$	0		0
・ドリル				
④ レポート		0	0	
⑤ 双方向&対		0		対面
面				0

# 2. 器楽と音楽科概説のオンライン授業

### (1) 器楽での双方向レッスン

実施期間: 2020年4月20日~8月19日

担当者:筆者と非常勤 13人(1コマは9人で担当)授業内容:

履修学生:1年4クラス、2年4クラス計220人

・ピアノ、弾き歌い…個人レッスン(iPad を使い、 zoom にてオンラインレッスン)

個人レッスンは図1のように、教員がiPadなどで、学生の演奏画面を見てアドバイスしたり、図2のように実際にピアノでの演奏画面を見せたりして指導した。

なお今回の授業の為に、バネで自由に動かせる、スマホやタブレット用のホルダースタンド(図1の左側に見えるもの)を購入した。

#### 図 1 zoomによる非常勤レッスン場面 1





図 2 zoomによる非常勤レッスン場面 2

### (2)器楽でのオンデマンド配信

#### 1)楽典の動画配信

本学に入学してくる学生は、これまでピアノ等の鍵盤楽器を全く習っていなかった初心者も多いので、レッスンに必要な基礎的な楽典内容等の映像等を作成し、manabaでオンデマンド配信した。具体的には、図3に示すように、器楽で使用しているテキスト『レッスンとワーク~うたごころのある演奏をめざして』、公文征子/高塚由美/飯泉祐美子編著、共同音楽出版社、2017、を使った解説映像を筆者が作成した。

映像作成にあたっては、テキストの該当ページをスキャンして jpeg 保存し、それをペイントのソフトウェアで開き、zoomの画面共有機能を使ってデスクトップ上にテキスト画面を出した。テキスト9ページの音名と鍵盤の位置の解

説では、説明をしゃべりながらリアルタイムに テキストに赤や水色の楕円を記入するなどの チェックを入れていき、その状態を録画した。

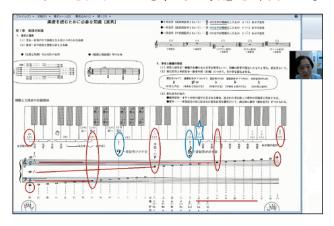


図 3 テキスト P.9 の解説画面

また、24ページの伴奏付けでは、同じ形の伴奏が使えるということをわかりやすくするため、ペイントのコピーペースト機能を使って、説明した。



図 4 テキスト P.24 の解説画面

#### 2)ドリルの作成

音楽理論の解説を見たあとの理解度を確認する為、練習問題をすることが必要だが、器楽で使用しているテキストは、ピアノ演奏等の実技が主眼におかれているので、楽典の問題は掲載されていなかった。そこで、manabaで昨年度使用した、大東文化大学の深見友紀子教授が作成した音楽概論の小テストから、許諾を得て問題をピックアップし、練習問題とした。

図 5 はその画面であるが、学生が回答して提出すると、自動採点が行われ、誤答についての 正答を見ることもできる。また、問題がシャッ フルされるので、何度でもやることができる。



図 5 音程のドリル画面 (Step 1)

なお、音程については、前期の段階では、度 数のみ説明したので、問題も度数のみにした。

## 3)弾き歌い、ピアノ演奏の動画配信

弾き歌いも本学に入学してくる学生にとっては、ほぼ全員が初めて行うものなので、その練習方法についての映像を非常勤教員の協力のもとに作成した。加えてピアノに親しむ為に、非常勤によるオリジナル連弾作品の動画もアップした。この作品は、Second ピンクパンサーのメロディを弾き、Primo は 1 本指で「ソ」をリズムに合わせて交互に弾くというものであり、リズム感を付けることにも役立つ。図 6 の動画以外に Second の演奏のみが入っている動画とアップし、学生が動画にあわせて自分でPrimo パートが楽しめるような工夫も行った。



図 6 連弾演奏の画面

2 年生の器楽Ⅲでは、ブルグミュラーの課題 曲の練習ポイントを説明した映像も非常勤に よって作成された。次頁の図7は「優美」の32 分音符を演奏する時のポイントを示した画面 である。



JMSME 音楽教育メディア研究 第7巻 令和3年3月

図 7 ブルグミュラーの演奏解説映像

### (3)音楽科概説でのオンデマンド配信

#### 1)音楽理論の動画配信

前期の器楽Iで行った楽典の内容を、後期の音楽科概説では、詳しく説明した。次に示すのは両方の「音階」を説明する画面である。



図 8 音階 (器楽テキスト P.16) の解説画面

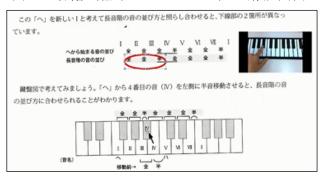


図 9 音階 (テキスト P.61) の解説画面 図 8、図 9 はどちらも音階についての説明動画 であるが、図 8 の方は前期のテキストにしたが って説明し、図 9 は後期の音楽科概説のテキス

3 深見友紀子/小林田鶴子/坂本暁美、『この一冊でわかるピアノ 実技と楽典 増補版』、音楽之友社、2019 ト3によって説明がなされている。

音楽科概説では、音階の説明にテトラコードを使っているので、その内容も含めた解説を行った。また、鍵盤を示す映像では、前期に作成したものは、黒鍵側から眺めた映像になっており、わかりにくかった為、音楽科概説では、鍵盤を弾く側の目線に合わせた映像にした。

また、音楽科概説では、補助プリントを作成して 配布したので、そのプリントの作成時に使った譜面 ソフトウェアで音を鳴らした動画も作成した。



図 10 プリントと音楽ソフトウェア画面 (左側のソフトで右側の配布楽譜の音を演奏)

#### 2)ドリルの作成

器楽Iと同様に、manabaでのドリルを作成して、一つの項目が終われば、対応したドリルを行うようにした。この内容は、器楽と同様、大東文化大学で作成されたコンテンツを基にしたが、授業内容に応じての変更も行った。前期に比べて、内容も細かくなり、問題数も多くなっている。



図 11 音程のドリル画 面(Step10)

図 11 は音程の問題であるが、前期に実施した問題(図 5)では度数だけであったが、後期は、音程の種類も問い、問題自体も難易度が高くなっている。

また、小テスト記録用紙を作り、項目ごとに、 実施日と点数、分かったこと・分からなかった ところ等を記載して提出させた。

<小テスト	記録>	<b>芦籍番号</b> (	) :	名前( ) manaba ID( )
	Step	実施日	結果	分かったこと・分からなかったところ
音名	1	10/13	/6点	ト音記号だので 一目見ると分かるようになた
	2	10/13	15点 →16点	1つだけト音よみしてしまった。2回目は大丈夫だ
	3	10/13	16 😓	スピードも大事だなと思った
	4	10/13	13点 7 16点	ト音と入音がませ、てしま、て3問まらかえた
	5	10/13	16点	だいぶへ音がよめるようにな、てきた
	6	10/13	16点.	万回は八音とト音がまざらなからた
	71	10/13	28 点	問題の系統が変め、たがきちんと答えられた
	8	10/13	14点	「ハッでは、のちがいがりし/かかった
	9	10/13	20 5.	頭のtのり替えが少した変だった
	10	10/13	30 5	最後に、井、いしりが人、てきたがまよりあ岩えることができ
音階と調	1	11/3	13点→18点	bと井にまどれされて数が月まちがえてしまった
	2	12/22	18点	だんだん慣れてきたので次からもかんばろうと思
	3	12/22	20 点	いつもよりはやくできた気がある。
	4	12/15	16点	1回目は何個の動がえたけど、2回目は満点だった

図 12 <小テスト記録>用紙

このように、スモールステップで、前期との 関連を考えながら、音楽科概説のコンテンツを 作成していった。

## 3. 音楽科教育法の授業

音楽科教育法の授業概要は以下のようになる。

実施期間: 2020年4月22日~7月22日

履修学生:2年4クラス(2クラスずつの合同

授業)、計90人

担当者:筆者

授業内容:音楽教育に関する歴史や学習指導要 領、指導案の作成方法の講義と模擬授業

#### (1) オンデマンド配信

音楽科教育法に於いても、講義の部分は器楽と同様オンデマンド配信を行った。こちらは、図 13 のようにパワーポイントに講義の内容をまとめ、学生が自主学習できるようにした。

なお、学生に学習の興味を喚起させるように、各ページにキャッチコピーのような文面を付け、アニメーションも細かく付けた。対面授業では、CDを聞かせることができたが、オンラインではその代わりに YouTube で教材

にふさわしいものを検索して選び、リンクを 張った。



図 13 パワーポイント画面

#### (2) Zoom による授業

#### 1) 弾き歌いチェック

毎年小学校共通教材を一人1曲ずつみんなの前で演奏してもらうのだが、今年度はオンラインのため、自宅から zoom を使った発表となった。発表画面を見て、筆者から演奏についてのアドバイスを行った。



図 14 弾き歌い発表場面

自宅に鍵盤楽器が無い場合は、スマホの鍵盤 アプリなどを活用して、指1本だけの伴奏など、 工夫を凝らして発表してもらった。

この方法は、器楽のオンラインレッスン時に も行われた。

#### 2) 模擬授業

模擬授業も本来は対面で行うものであるので、オンラインでどのように行うか模索をしたが、5~7人のグループごとに zoom のブレークアウトルームに入って話し合いや相談の機会を設け、最終的には、パワーポイント等を使ってプレゼンテーションする形で実施した。



図 15 歌唱模擬授業発表画面

図 15 は、3 年生の歌唱共通教材「ふじ山」の 模擬授業画面で、曲の山について説明している ところである。グループの一人が教師役となり、 残りのメンバーは児童役となって受け答えし ていた。他のグループでは、教師役の学生が、 クラス全体に対して問いかけたりし、クラス全 員を児童に見立てた模擬授業が行われた。

### (3) zoom と対面によるハイブリッド授業

15回の授業のうち、ABクラスについては各 1回だけ対面模擬授業を行った。

授業概要は以下の通り

実施日:1回目7月7日(火)5限 A クラスの対面 2回目7月28日(火)5限 B クラスの対面

場所:音楽室と廊下

人数:1回目対面 17人、自宅で zoom 受講 27人 (A3人、B24人)

2 回目対面 22 人、自宅で zoom 受講 22 人 (A 20 人、B 2 人)

授業内容:1回目4学年「ことに親しもう」

2 学年「おまつりの音楽」

2回目6学年「八木節 合奏」

対面授業を実施した理由は、新学習指導要領で和楽器の扱いが中学年に下りたことによって、学級担任が音楽の授業で和楽器を扱う可能性が増えたが、自宅で和太鼓等を触る機会は少ない為、実際の楽器がある音楽室で行う必要があった為である。また、zoomでは音がずれ、合奏など、音のタイミングを合わせることそのものが難しい為、対面で授業行う必要があった。



図 16 音楽室に映し出された zoom 画面



図 17 「おまつりの音楽」の和太鼓演奏場面

# 4. オンライン音楽授業の効果と課題

### (1)zoom 授業の利点と課題

当初、zoomでレッスン等がうまくできるかどうか、懸念されたが、一応双方向のレッスンの形態はとれた。また、一人ずつ集中してできるという利点や、回りに人が居ない為思い切って声が出せたという意見もあった。模擬授業では、制約がある分、逆に様々な工夫がみられた。課題としては、やはりインフラの関係で、音が途切れたりうまく繋がらなかったりすることである。

#### (2) オンデマンド授業の利点と課題

時間に影響されず学習や問題ができ、学習 履歴も残るので、今後も引き続き使いたい機 能である。ただ、コンテンツ作成に膨大な時 間を要することが課題である。

#### (3)ハイブリッド授業の利点と課題

教室の収容人数を少なくする為にもこの方法 は有効であるが、対面の感染防止対策や、オ ンラインの操作などに携わるスタッフが必要 である。

以上、今回の経験を有効に生かして、今後 もオンライン授業方法を模索していきたい。